

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700800		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地	兵庫県神戸市須磨区多井畑南町4-1		
自己評価作成日	令和3年5月31日	評価結果市町村受理日	令和3年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhiw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqvosvoCd=2870700800-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和3年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

奥須磨公園をはじめ自然豊かな住宅地の中にある。施設隣には小さな公園があり、春には満開の桜を見ることができ入居者様も喜ばれている。近くにパン屋さんとコンビニがあり買い物をしたりできる。施設の中は新しくきれいに整備され明るくアットホームな雰囲気開放感が感じられる。食事は温かいお味噌汁を提供しほとんどがスタッフ手作りの料理を提供している。朝のリハビリ体操、おやつ前にラジオ体操を健康維持のために毎日の日課として行っている。医療連携体制が整っており、緊急時にも看護師、主治医の協力が得られ安心して生活して頂けるよう支援している。訪問歯科診療を入居者様に受けて頂いており日頃から口腔ケアに力を入れ誤嚥性肺炎などの疾病の予防に努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・職員相互に居心地の良い施設運営が心がけられています。相互の関係性の構築に努められており、家庭的な雰囲気、お互いに居場所として好きな施設づくりがなされています。職員自身が仕事を楽しいと感じており、支援への配慮とやる気にも繋がっています。施設内は空間と収納の確保に努められており、生活の場としてすばらしい施設環境作りを目指されており、落ち着いた生活が過ごせるよう配慮されています。利用者の健康維持に配慮されており、生活能力の維持を意識した支援の提供がなされています。職員のストレスやメンタル面にも留意されており、居心地の良い施設運営に支障が出ないよう努められています。コロナ禍の制限下において、家族への連絡等は特に留意され、情報提供の拡充によって、家族へ不安を与えることがないように配慮されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲げ、ゆっくり、一緒に、楽しく、の理念のもと地域の方との交流を増していくようなケアの実践につなげている。	家庭的な雰囲気の中で生活して頂く事をモットーに、法人として生活に主眼を置いた理念が定められています。居心地の良い施設に注力し、利用者・職員お互いが楽しく生活できる場の形成に努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧等で地域の情報を共有している。運営推進会議、地域の催しには今年度は実施していないが、公園の清掃活動に利用者様も参加し交流している。	地域の一員として自治会にも参加し、地域との繋がりが保てるよう努められています。自治会活動にも可能な範囲で利用者と共に参加しており、地域との情報交換や、顔の見える関係づくりに繋がられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学希望者の相談は継続している。日常の支援を第一にしつつ地域に暮らしが利用者様に役立つことがないか話し合い取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は情報交換だけでなく率直な意見をもらう。内容は、昼礼等で職員へ伝達し周知している。玄関に議事録を置き何時でも閲覧できるようにしている。	コロナ禍の制限下において、面談での開催は困難ですが、施設側から資料を送付し、また、ご意見等を聴取することによって、施設運営に活かせるよう努められています。制限下においても、双方向の意見交換ができる手段の拡充に努められています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市及び区の担当者、地域包括支援センターと連絡をとり、協力関係を築く努力をしている。特に保護課とは生活保護受給の利用者様が多いことから日常的に連絡を取り合っている。	支援にかかる内容に限らず、利用者の生活を支える上で必要な行政との連携が図られています。利用者個別課題について必要な行政支援が受けられるよう努められています。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修の必須事項とし、全職員が受講し理解して業務に取り組んでいる。玄関の施錠についても職員と意見交換を交わしながら身体拘束しないケアについて話し合っている。	3ヶ月に1回、委員会の開催があり、内容は職員に共有されています。職員には年間2回の研修が行われています。研修の際は、単なる講義ではなく、職員相互が事例を検討し、意見交換をする場にする事で、理解の促進と意識付けの維持に努められています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織内の研修は職員全員が受講し理解した上で業務に当たっている。日々の言葉かけや介護についても虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。	年2回虐待に関する研修が実施されています。研修終了後は、感想を研修報告書で提出することで、職員個々の意識やスキルの把握がなされており、職員個々に必要な研修指導へ繋がっています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は組織内外の研修にて学んでいる。入居前や入居後においても必要に応じてご本人が制度を活用できるように支援している。	年1回職員研修が行われ、権利擁護の対する意識の継続と、振り返りに繋がっています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前段階での、ご本人・家族との面談で十分に話し合い、質問や疑問に答えており理解や納得を得ている。介護保険法の改定に伴い料金の変更についても説明を行い、理解、納得を図っている。	契約時は必ず2名で対応するよう努められています。トラブルになりやすい料金にかかること等は、理解頂くまで丁寧に説明されています。利用者の生命に関わる緊急時対応や医療方針等についても、意向を踏まえた上で出来る事出来ない事を伝え、理解を得た上で、契約に至っています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付にご意見箱を設置している。家族面談を行い意見を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。運営推進会議に、利用者様、ご家族様に参加して頂き意見を伺っていたが前年度は会議をしていない。	運営推進会議での意見や家族面談時の意見聴取を基に、運営に反映できるよう努められていましたが、コロナ禍の制限下において聴取が困難となっており、今後は電話や書面での意見意向聴取の拡充が予定されています。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
11	(10)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議や昼礼等で意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見を取り入れ他職員に周知している。職員の意見や提案を聴いている。</p>	<p>会議時に職員からの意見を表明する機会が設けられており、運営上の課題については職員全体で検討し、答えを探し出す方向で進められています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>月1回所長会議で代表者への報告する機会を設けており、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の様々な研修を受講できるように、シフト調整をしながら積極的な参加を促している。ケアの質、力量不足が見られた場合、その都度指導を行い知識、技術を身に着けるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会は中止していたが、電話連絡を行い他施設の状況を知り、情報交換により刺激を受け、ケアの向上に活かすよう努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の習慣や嗜好などを把握し、入居時にはご本人やご家族からのお話を時間をかけてじっくりと聞き、不安が解消されるような関係作りに努めている。</p>		

令和3年度 グループホーム たんぽぽ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族の不安な気持ちを受け止め、疑問、要望などを伺い、納得や理解が得られるよう努めている。ご家族の面会は制限しているが、電話でご本人の状況を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご本人やご家族には他のサービス利用も含めて説明し、ニーズがどこを求められているのかを見極める様に努めている。段階的にニーズの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり、一緒に、楽しくの理念にもとづき、アットホームな雰囲気でも過ごして頂けるように、お互いに支え合う関係を築き、利用者様を深く知るよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況報告をおこなっている他、電話や手紙の交換を支援し、ご家族と職員が共に利用者様を支える関係を大切にしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限により馴染みの関係が途切れつつあるが、関係が途切れないような支援を行いたい。	コロナ禍の制限下において、面会や外出機会の確保が困難な状況を踏まえ、利用者情報の収集方法の拡充実施を検討されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などの日課やレクでは利用者様同士が協力しながら関わり合えるよう支援している。相性にも配慮し、上手に関わりが出来るよう、座席などにも気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ、ご家族や退去先の関係者と連携を取りながら経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるように、よくお話を伺っている。内容によって面談を行い話を伺っている。意思疎通の難しい方については表情等によりくみとるように努めている。	利用者からの傾聴に努め、さりげない会話の中から意向や思いを把握できるよう努められています。表情の変化にも留意され、意向に沿った支援となっているか検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より、個々の歴史やサービス利用に至った経過の情報収集に努めているが、本人との会話の中で知るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で情報等を収集し、申し送りの中で職員が共有している。ご本人の出来る力を活かせることが無いかサービス担当者会議で意見交換している。		

令和3年度 グループホーム たんぽぽ

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人・ご家族の意向を踏まえ、ミーティングやカンファレンスで意見やアイデアを出し、モニタリングを行い主治医など関係者とも話し合い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。</p>	<p>職員が日々の支援で得た気付きや主治医等の意見も踏まえ、現状に即した介護計画の作成が出来るよう努められています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の生活の中で介護職員しか知らない事実を具体的に記録している。日々の様子に変化があれば、記録や申し送りで情報を共有し実践や介護計画の見直しに活用している。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人・ご家族の状態や状況に応じ、求められる事には柔軟な支援や臨機応変に対応しサービスの多機能化に努めている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の情報を把握し、行事に参加できるように努めているがコロナ禍の為外出を制限している。ご近所さんやコンビニ、パン屋、交番の方にも協力を得ている。</p>	/	
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にご本人及びご家族の望まれる主治医を決めている。専門医への受診や訪問診療受診の支援を行っている。眼科、形成外科、週1回の歯科往診も行っている。</p>	<p>かかりつけ医は利用者並びに家族の意向を踏まえて決定頂いています。施設では、毎週往診があり、受診並びに口腔ケアの対応がなされています。提携医療機関は24時間対応されており、時間曜日にかかわらず適切な支援や対応が行われる体制が整えられています。</p>	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>24時間の医療連携体制を整えており、常に連絡が取れる体制をとっている。定期的な看護師の訪問時、訪問看護師に情報提供や相談をしている。</p>	/	
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院になれば、病院関係者と情報交換し、家族と情報交換行う。入院先に面会は控えている。退院のめどがつけば速やかに受け入れる体制は出来ている。</p>	<p>入院時には、医療ソーシャルワーカーと情報交換され、必要な医療情報や介護情報の提供が行われています。退院時には、支援計画の見直しや体制作りなど、連携した対応に努められています。</p>	
33	(16)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居後早い段階から重度化した場合や終末期のあり方について、主治医を交え、ご本人、ご家族との話し合いの場を設け、方針を共有している。また、方針の見直しや確認も必要に応じて行っている。</p>	<p>契約時に、終末期や医療に関する説明と同意が行われています。特に医療方針等については、丁寧に説明し、十分な理解を得た上で、出来る事出来ない事を意向を踏まえた上で話し合われています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は緊急時の対応マニュアル、法人内外の研修で学び、看護師や主治医にアドバイスを求めて応急手当の実践力を身に付けるよう努めているが、すべての職員に対し十分に訓練ができているとは言えない。</p>	/	
35	(17)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の昼間及び夜間の消防避難訓練をおこなっている他、災害時の避難誘導も行っている。地域の方の参加を呼びかけているが参加にまで至っていない。</p>	<p>夜間想定避難訓練も実施されています。地域と連携した避難訓練が計画されていましたが、コロナ禍の制限下において実施には至りませんでした。緊急持ち出し袋が用意されており、避難時に必要なものが持ち出せるよう準備されています。</p>	<p>様々な災害に対するマニュアルや訓練の拡充が望まれます。</p>

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や職業倫理の研修を通し、人格を尊重した支援を学ぶと共に、日頃一人ひとりの自尊心を大切に、入浴、排泄に関してはプライバシーを損ねない支援に努めている。	接遇研修が行われています。利用者個々とのやりとりや何気ない会話が、結果として自尊心を傷つける結果となったり、羞恥心を生じさせる結果に繋がらないよう意識した支援の提供に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご自身の希望や思いを表しやすいよう、分かりやすい言葉かけや対応を行い自己決定しやすい様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく利用者様のペースを大切に、外出などの希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容をおこなっている。衣類はそれぞれ季節に合ったものをご本人に選んで着て頂いている。身だしなみを整えておしゃれをしている時はほめるようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできることに応じ、もやしのひげ根取りや食器拭き、テーブル拭きなど役割を持っていただけよう支援している。暖かい味噌汁を提供している。	食事準備等は、利用者と共に行われ、利用者各自ができる事を役割分担して進められています。食事の際の雰囲気作りに配慮され、音楽の選曲や音量等にも配慮されています。行事やイベントの一環として、利用者と一緒におやつ等を作るなど、作る楽しみと食べる楽しみを得られるよう努められています。季節食の提供も行われています。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量はチェック表にて把握している。職員は、必要な水分量、食事摂取量がとれるように意識してケアしている。一人ひとりの状態に合わせて、ミキサー食、刻み食、トロミ剤使用などを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声掛けを行い口腔ケアが習慣化している。口腔ケアを支援に加え、週に一度の歯科往診があり、口腔内及び義歯の清掃がなされている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを読み取り失禁に至る前の誘導するタイミングの工夫など行い排泄の失敗が減らすよう努めている。オムツの使用を減らすように支援している。	排泄自立の利用者が多いので、見守り観察支援が主流となりますが、利用者の状況や様子によって、声かけ等により適切な排泄が出来るよう努められています。声かけ等は、羞恥心を招かないよう配慮して対応されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認は行えている。一定のリズムで排便があるよう下剤の調整をしている。水分・食事摂取量も把握しており、水分量が少ない方は嗜好品を提供している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務体制で時間が限られている。午後から入浴となっているが午前中にも入浴できるよう対応している。入浴を断られた時は無理強いせずに翌日に変更したりしている。	計画にこだわることなく、利用者の状況や意向に沿った強要しない入浴が出来るよう心がけられています。脱衣時には、プライバシーに配慮した支援の提供に努められています。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりのペースを大切に、居 室で休息や睡眠をとられる際は 訪室をし安否確認をしている。室 温調整や天気の良い日には、布 団干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師、看護師の協力 を得ながら処方されている薬を 理解するよう努めている。服薬 支援は事故の無い様にし症状の 変化があれば主治医へ報告して いる。薬剤情報は各ユニットに おき常に確認できるようにして いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	お手伝いをして頂いた際はねぎ らいの言葉をかけそれぞれに応 じた役割を支援している。歌を うたって頂いたり、散歩、買い 物など一人ひとりにあった楽 しみ事、気分転換が出来るよう に支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している	前年度は家族様と外出は控え てもらっているが、天気の良い 日は外に出て外気浴をしたり シャボン玉遊びをして出来る ことを楽しんでもらっている。	コロナ禍の制限下において、 遠出は困難なため、施設近 隣の公園や、敷地内で外気に 触れる機会、歩ける機会の 確保が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している	希望される方は家族様との取 り決めで金銭管理を行っている 。職員と買い物に行ったり、 ホーム内の自販機で自由に購 入できるように支援している。		

令和3年度 グループホーム たんぽぽ

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から手紙をいただいた時はすぐ手渡していただいていて、ご家族様から荷物が届いた時は電話をかけてご本人と話をさせて頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの装飾を行い季節感を楽しんで頂いている。利用者様のレクリエーション作品も飾り、楽しい空間であるよう工夫している。施設特有の匂いがしないよう換気に努めている。	趣味を活かした絵や制作物などが掲示され、利用者と共に季節感のある空間作りに努められています。時節柄、換気や衛生管理にも留意され、清潔で過ごしやすい共用空間を意識した整備がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の関係性を考慮し居心地の良い空間となるよう席など工夫している。その時々状況により自由に座って頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が馴染みのある空間で生活して頂く様入居時には馴染みの筆筒、衣類、仏壇を持ってきて頂いている。	馴染みのある家具や調度品、仏壇等を積極的に持ち込まれ、暮らしの空間の継続性に配慮されています。利用者個々で、写真や記念品等を設置されたりもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には分かり易い表示をつけており、廊下の手すりを使用しながらの自力歩行を支援している。一人ひとりの出来ること、分かることを把握し、それらを活かすよう努めている。		